

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32524

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24590814

研究課題名(和文) 親子相互作用査定尺度 JNCATS に基づく次世代センシティブ支援ネットワークの構築

研究課題名(英文) Developing networks to support the next generation based on Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale

研究代表者

寺本 妙子 (TERAMOTO, Taeko)

開智国際大学・リベラルアーツ学部・教授

研究者番号：20422488

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000 円

研究成果の概要(和文)：本課題は早期の親子の関係性のアセスメント尺度であるJNCATSとその主要概念について、専門領域の枠や専門性の有無を超えて広く普及させ、健全な親子の関係性の育成を社会で広く支える体制の基盤づくりに資することを目的とした。

本課題はJNCATSに関する教材開発と教育・啓蒙サービスの提供手段の整備から構成された。後者は子育ての現役世代の前後の世代(親準備世代、子育て終了世代)へのアプローチであった。親準備世代(大学生)を対象に心理教育を実践し、その次世代育成意識と関連要因についても検討した。また、子育て終了世代(地域の中高年者)を対象に心理教育を実践し、その次世代育成意識についての調査・検討も試みた。

研究成果の概要(英文)：Networks for supporting next generations were developed based on key concepts of the Japanese Nursing Child Assessment Teaching Scale (JNCATS), which is designed to assess early relationships of infants and children with their caregivers. The networks were designed to bring together resources offered by specialists and non-specialists in infants' mental health (IMH). This Project consisted of the following activities. (1) Developing educational materials on IMH and JNCATS and developing psycho-educational programs for non-specialists, including young people who would be future parents (university students), and older people who had experienced child rearing (middle-aged and elderly people). (2) Investigating factors related to attitudes of university students about nurturing the next generation. (3) Conducting semi-structured interview on attitudes towards nurturing the next generation in middle-aged and elderly people with child rearing experiences.

研究分野：医歯薬学(社会医学)

キーワード：乳幼児精神保健 NCATS 親子の関係性 親準備性 次世代育成 養護性 世代性 時間的展望

### 1. 研究開始当初の背景

親子(以下、養育者と子どもの意味で用いる)の心身の健康を守り育てることを目的とする乳幼児精神保健(Infant Mental Health: IMH)においては、早期の親子の関係性に注目する。子どもの人生のスタートにおける養育者との安全で安定した関係性は、その後の心身の健全な発達の基盤となる。親子の関係性には、子ども、養育者、環境といった複合的要因が関連するが、関係性の歪みから生じる様々な問題(養育者の育児困難、育児不安、虐待等)への対応が国内外で行われてきた。このような試みの要となるのが、親子の関係性をいかに客観的にアセスメントするかという問題であり、世界的に広く普及している尺度のひとつに NCATS (Nursing Child Assessment Teaching Scale) が挙げられる。NCATS は遊びながら教える場面における親子の関係性を相互作用として捉えるアセスメント尺度であり、原版は K. Barnard 博士、日本語版(JNCATS)は廣瀬たい子博士によって開発された。なお、NCATS は親子支援の教育プログラムである NCAST (Nursing Child Assessment Satellite Training) で提供される尺度である。

これまでの研究活動では、JNCATS の訓練体制の整備、実践・研究支援体制の整備、専門職者のネットワーク構築が実現したが、対象が専門職者に限定された活動であった。現実問題として、親子を見守り支える役割を専門職者のみが担うには、コスト面でもマンパワーの面でも限界がある。親子の日々の生活に密着し、継続して見守り支えるには、専門職者以外の人的資源を掘り起こし活用する必要が考えられた。親子の関係性を客観的に査定・支援できる高い専門性を備えた人材育成という目標から、一般市民(地域住民、子育て終了世代、これから親になる世代等)に親子の関係性の主要部分(エッセンス)についての学びの場を提供するという目標への移行が次の課題と捉えられた。すなわち、親子を見守り支える体制の裾野を広げ、専門職者ではない人的資源をも巻き込み、子育て現役世代やその専門的支援者でなくても、社会で広く親子を見守り支えるという「次世代育成」の意識をもった支援体制(次世代センシティブな支援ネットワーク)を構築する必要性が考えられた。これは現代社会の要請でもあり、それを旨とする本研究の教育・啓蒙的意義、及び社会的意義は大きいと捉えられた。

### 2. 研究の目的

本研究では、早期の親子の関係性のアセスメント尺度である JNCATS とその主要概念について、専門領域の枠や専門性の有無を超えて広く普及させ、健全な親子の関係性の育成を社会で広く支える体制の基盤づくりに寄与することを目的とした。具体的には、教材開発(研究1)と教育・啓蒙サービスの提供手段の整備(研究2)に取り組んだ。研究1

では、乳幼児のサイン(Cue)の理解促進のための教材である BabyCues( NCAST programs, 2003)の日本語版(試作版)の開発を試みた。研究2では、次世代育成に関する心理教育プログラムの考案・実践・評価を試み、更なる改良のための基礎資料を得るため、次世代育成意識に関する調査研究も試みた。

### 3. 研究の方法

(1)研究1: 日本語版 BabyCue カード(試作版)の開発

BabyCues は、乳幼児の顔の表情、身体の動き、発声・発話等のサイン(Cue)についての理解を促す教材(写真カード)である。この教材では、コミュニケーションへの積極的関与という観点から、サインを親和と嫌悪に2分し、更にその強弱によって2分して理解する(強い親和・弱い親和・強い嫌悪・弱い嫌悪の4分類)このように分類することで、子どものニーズの理解や適切な対応が促進されると考えられている。原版は米国で開発されたものであるが、日本人親子に利用しやすい教材となることを目指して、岡林・廣瀬・寺本・岡光・大森(2013)は、原版開発者の許可を得て日本語版(試作版)の作成を試みた。日本人親子の動画・静止画から、原版の32種類のCueに対応する静止画像を作成し日本語版(試作版)とした。専門家、医学、及び看護学を学ぶ大学生を対象に原版と日本語版の評価テストを実施し、日本語版の妥当性について検討した。

(2)研究2

乳準備世代(大学生)を対象とした次世代育成に関する心理教育の実践と評価

親子の関係性に焦点化した NCAST プログラムの教材を用いて、次世代育成意識を促進するための心理教育の実施・評価を試みた(寺本, 2015; 寺本・廣瀬, 2012, 2015)。使用した NCAST 教材は、親子の関係を概念化した Barnard Model, 及び親子の日常的な遊びを通じた学びの相互作用プロセスを模式化した Teaching Loop( Sumner and Spi tetz, 2004; 廣瀬, 2006 ), 先に挙げた BabyCues ( NCAST programs, 2003 ), 親子の関係性の理解を促す Promoting First Relationships ( Kelly, Zuckerman, Sandoval, and Buehlman, 2008 )であった。準実験デザインを採用し、教材を用いての講義・演習、及び実習の前後で評価テスト(次世代育成意識、自分の親子関係)を実施し、本心理教育の有効性について検討した。評価テストには、養護性尺度( 糊澤, 2012: 「幼い子どもに対する共感性」「幼い子どもに対する技能の認知」「親への準備性」「子どもの非受容性」の4下位尺度で構成)、次世代育致力尺度( 菱谷・落合・池田・高木, 2009: 「誕生を肯定することができるという自信」「自己成長できるという自信」「伝えるものを持っているという自信」「地域社会の力を借りることができるという自信」の4下

位尺度),親への信頼感尺度(酒井,2005:「母親への信頼感」「父親への信頼感」の2下位尺度)を使用した。

一般市民(地域住民,子育て終了世代)を対象とした次世代育成に関する心理教育の実践

一般市民を対象とした,次世代育成意識の活性化を目的とする心理教育を試みた(寺本,2016a)。一般市民が参加しやすい生涯教育の場である大学の公開講座を活用して実施した。トピックとして,早期の親子の関係性,乳幼児精神保健,NCAS 教材(BabyCues, Promoting First Relationships)を取り上げ,次世代育成の心理学的な意義,並びに社会的な意義について検討した。

#### 大学生の次世代育成意識に関する調査

親準備世代である大学生を対象に次世代育成意識(養護性,次世代育成力)及び関連要因(家族構成,親との関係性,時間的展望)に関する質問紙調査を実施した(寺本,2013;寺本・柴原,2013,2014,2015a,2015b,2015c;Teramoto and Shibahara,2016)。関東および近郊の5大学における様々な専攻・専門課程の1~4年生を対象とした。基本属性(年齢,学年,性別,学部・専攻,家族構成),養護性(糊澤,2012),次世代育成力(菱谷他,2009),親への信頼感(酒井,2005),時間的展望(「目標指向性」「希望」「現在の充実感」「過去受容」)の4下位尺度で構成される時間的展望体験尺度(白井,1994)を使用)について調査し,次世代育成意識と他の要因の関連性について検討した。

#### 子育て終了世代(中高年世代)の次世代育成意識に関する調査

地域子育て支援に参加する中高年者を対象に,半構造化面接と質問紙調査を実施した(寺本,2016b;寺本・柴原,2015d)。面接では,子育て観(現代の子育て,自分の体験した子育て),地域子育て支援への関心・参加,参加している地域子育て支援活動(活動内容,参加開始のきっかけ,その当時の気持ち,現在まで活動を行って感じたこと・気づいたこと)について聞き取り,その内容を質的に分析した。また,中高年者の次世代育成意識として世代性に着目し(「創造性」「世話」「世代継承性」から成る世代性関心尺度(丸島・有光,2007)を使用),時間的展望(白井,1994)との関連についても検討した。

#### 4. 研究成果

##### (1) 研究1(日本語版 BabyCue カードの開発)

原版と今回作成された日本語版(試作版)の評価テストの結果,日本語版の方が Cue の読み取りの平均正答率が高く,本試作版の妥当性が示唆された。しかし,弱い Cue に関しては,読み取りにくさも示され,改善の余地が残された(岡林他,2013)。

##### (2) 研究2

大学生を対象とした次世代育成に関する心理教育

5回の講義と演習から構成された心理教育(参加者18名)の事前・事後テストにおいて,親への信頼感,養護性(「共感性」「親への準備性」),次世代育成力(「誕生肯定の自信」「地域社会での自信」)における得点の有意な上昇が確認され(Wilcoxonの符号つき順位検定),本心理教育による次世代育成意識の促進,及び親への信頼感の向上が認められた。このことから,本心理教育の有効性が示唆された(寺本,2015)。

また,2~3回の講義と演習に引き続き,育児支援施設における10日間の心理実習を実施したプログラム(参加者12名)においても,事前テスト,事後テスト1(講義・演習の終了後),事後テスト2(実習終了後)を通じて,養護性(「技能」「親への準備性」「非受容性」)の促進・改善が認められ(Friedman検定と多重比較),本心理教育の有効性が示唆された(寺本・廣瀬,2015)。

一般市民を対象とした次世代育成に関する心理教育

地域在住の中高年者を対象に,大学の公開講座において実施した心理教育には,のべ29名の参加があった。講義の後に小グループを作って意見交換をおこなうアクティブ・ラーニング形式を採用したが,日々の社会的活動として子育て支援や青少年支援に従事している方や,私生活で孫・子ども世代との交流に課題を感じる方が多く参加していたこともあり,活発で主体的な学びの場となった。準実験デザインによるプログラム評価には至らなかったが,参加者の意見・感想(自分が参加している支援活動の意義が再確認された,自分の親子関係を見つめ直す機会となった)から,本心理教育の意義,ならびに潜在的ニーズが示唆された(寺本,2016b)。

#### 大学生の次世代育成意識に関する調査

大学生(418名)の次世代育成意識と家族要因(年下きょうだいの有無,親との関係性),及び性別について検討した(性別,年下きょうだいの有無,クラス分析によって抽出された親への信頼感パターンを独立変数,養護性尺度得点・次世代育成力尺度得点を従属変数とする3要因分散分析)。女子の方が高い次世代育成意識を示す領域と性差が見られない領域の両方があり,領域によっては,男子も女子と同程度の意識を発揮することが示された。また,年下きょうだいを有し,日常的に年少の子ども世話をした経験がある者は,有意に高い養護性(「共感性」「技能」)を示した。性別との交互作用は,次世代育成力の一部で見られ,男子において年下きょうだいを有する者の方が有意に高い意識を示していた。親への信頼感については,高い信頼感と高い次世代育成意識の関連が見出さ

れた。性別との交互作用は、養護性の「親への準備性」と次世代育成力の「誕生肯定の自信」において見られ、低い信頼感を持つ場合でも、女子の方が男子より高い意識を保つことが確認された。これらの結果から、次世代育成意識は領域によって異なる様相を示し、性別や親への信頼感の影響を受けていることが示唆された(寺本・柴原, 2015b)。

また、大学生(463名)の次世代育成意識と時間的展望、性別についても検討を試みた(性別、クラスタ分析により抽出された時間的展望パターンを独立変数、養護性尺度得点・次世代育成力尺度得点を従属変数とする2要因分散分析)。時間的展望の高さと次世代育成意識の高さが関連することが示された。この結果から、肯定的な時間的見解が高い次世代育成意識を支えることが示唆された(寺本・柴原, 2015c)。

更に、大学生(399名)の次世代育成意識と時間的展望、親への信頼感の関連についての検討も試みた。時間的展望体験尺度得点、親への信頼感尺度得点、性別を説明変数とし、養護性尺度得点、及び次世代育成力尺度得点を基準変数とする重回帰分析(強制投入法)おこなった。「親への準備性」( $R^2 = .35, p < .001$ )に関して、有意な説明変数として「目標指向性」、「希望」、「母親への信頼感」、「父親への信頼感」が見出された(図1)。「継承の自信」( $R^2 = .36, p < .001$ )に関しては、これらに加えて「現在の充実感」が確認された(図2)。これらの結果から、現在や未来に対する肯定的な時間的展望や親との良好な信頼関係が次世代育成への高い意識を支えていることが示唆された(寺本・柴原, 2014)。

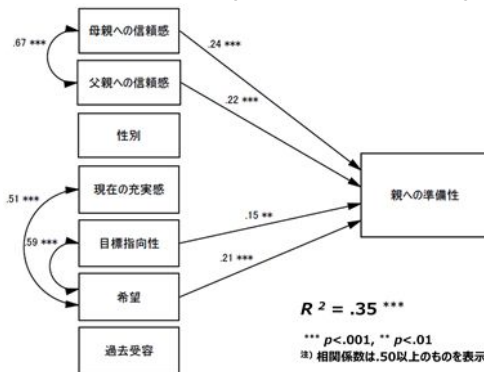


図1 「親への準備性」に関する重回帰分析の結果

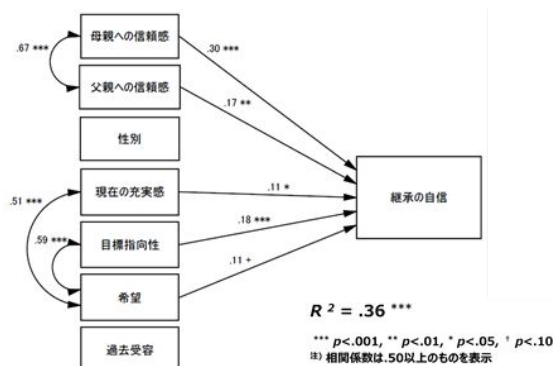


図2 「継承の自信」に関する重回帰分析の結果

## 中高年世代の次世代育成意識に関する調査

地域子育て支援に参加する中高年女性(4名)を対象に半構造化面接を実施し、支援活動において生じた「違和感」に着目して語りの内容を質的に分析した。子育てをする親に関する違和感として、【親の要求の過剰化】、【親の自律性の弱体化】が見出された。子どもに関しては【子どもの資質の変化】が、親子に関しては【親子の関係性の希薄化】が抽出された。また、親子を取り巻く環境に関する違和感として、【家族・社会の多様化】と【世代間の相互性・継承性の弱体化】が見出された。しかし、このような違和感を抱きつつも、この違和感を契機とした自らの支援活動の意味の再認識や、支援者としての役割の再定義等、前向きな適応や自己の成長・発達に寄与させようとする姿勢がうかがえた。親子を支援しつつも、自らの人生のふり返りと新たな意味付けを通じた、支援者自身の心理社会的発達が同時並行するプロセスとして捉えられた(寺本・柴原, 2015d)。

また、子育て経験のある中高年者19名(男性2名、女性17名)を対象に世代性と時間的展望に関する質問紙調査を実施し、各下位尺度得点間の相関について検討した。他者への関心・援助である「世話」は「現在の充実感」や「過去受容」と、後世に伝える意欲と関連する「世代継承性」は「目標指向性」と正の有意な相関を示した(表1)。子育て支援に参加する中高年者の世代性のうち、積極的な関与・援助(世話)は現在や過去に対する肯定的な見解と関連し、次世代への影響の希求(世代継承性)は目標指向性の高さに関連することが示唆された(寺本, 2016b)。

表1 時間的展望と世代性関心の相関(N=19)

時間的展望	世代性関心		
	創造性	世話	世代継承性
現在の充実感	-.20	.58**	.12
目標指向性	-.16	.18	.57*
希望	.25	.07	.21
過去受容	-.15	.46*	.03

Pearson's product-moment correlation

\*\*  $p < .01$ , \*  $p < .05$

## 総合考察

研究1と2から成る本研究は、全体を通じて概ね良好な成果を得ることができた。研究1において作成された日本語版 BabyCue カード(試作版)は、その妥当性が示唆された。しかし、実用的な使用に向けた改良の余地が残り、今後の課題とされた。

研究2における次世代育成に関する心理教育に関しては、大学生対象の試みにおける有効性や、中高年世代対象の試みの意義・潜在的ニーズが示唆された。後者に関しては、準実験デザインによるプログラム評価が課題として残された。

当初の研究計画の発展的展開として実施された次世代育成意識に関する調査におい

ては、大学生の現在・未来に対する肯定的な見解や良好な親子関係が高い次世代育成意識を支えていること、男子にも女子に劣らない領域があること等が示唆され、意識の活性化を促す方略の更なる模索に貢献する成果が得られた。中高年世代の次世代育成意識（世代性関心における世話）の高さに関しては、過去・現在の受け入れの良好さとの関連が示され、大学生の意識が現在・未来に対する肯定的展望と関連した結果とは対照的であった。世代によって、次世代育成意識に影響を与える要因（過去・現在・未来に対する心理的見解）が異なったことから、各世代に適した意識の活性化の方略の必要性が示唆された。親準備世代へは、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」といったキャリア発達も視野に入れた人生の将来設計と絡めた、次世代育成意識を促進する具体的な介入方略の検討が今後の課題とされた。子育て終了世代に対しては、過去から現在に至る心理的見解の統合（自らの人生の捉え直しや意味づけ）、ならびに次世代への支援を通じた自らの発達過程への意識化を考慮したアプローチ、換言すれば、支援を提供しつつも自らにも益のあるプロセスに焦点化した具体的なアプローチの模索が、今後の課題として残された。

#### <引用文献>

- 廣瀬たい子（監訳）. (2006). 養育者/親子とも相互作用：ティーチングマニュアル(日本語版). 東京：NCAST 研究会.
- 菱谷純子・落合幸子・池田幸恭・高木有子. (2009). 青年期の次世代育成能力尺度の開発とその検討. 母性衛生, 50, 132-140.
- Kelly, J. F., Zuckerman, T. G., Sandoval, D., & Buehlman, K. (2008). *Promoting first relationships (2nd ed.)*. Seattle: NCAST Publications.
- 糊澤令子. (2012). 青年期・成人期における養護性の発達と形成要因. 東京：風間書房.
- 丸島令子・有光興記. (2007). 世代性関心と世代性行動尺度の改訂版作成と信頼性、妥当性の検討. 心理学研究, 78, 303-309.
- NCAST programs. (2003). *BabyCues: A child's first language*. (www.ncast.org.)
- 岡林喜優子・廣瀬たい子・寺本妙子・岡光基子・大森貴秀. (2013). 日本語版 BabyCue カードの試作：親子の相互作用理解のために. 乳幼児保健学会第 7 回学術集会抄録集, 21.
- 酒井 厚. (2005). 対人信頼感の発達：児童期から青年期へ. 東京：川島書店.
- 白井利明. (1994). 時間的展望体験尺度の作成に関する研究. 心理学研究, 65, 54-60.
- Sumner, G., & Spitzetz, A. (2004). *NCAST: caregiver/parent-child interaction*

*teaching manual*. Seattle: NCAST Publications.

- 寺本妙子. (2013). 青年期の次世代育成に関する意識と時間的展望. 日本発達心理学会 24 回大会論文集, 295.
- 寺本妙子. (2015). 大学生を対象とした次世代育成に関する心理教育の実践と評価. 日本橋学館大学紀要, 14, 25-35.
- 寺本妙子. (2016a). 生涯学習における次世代育成に関する心理教育の試み. 開智国際大学紀要, 15, 137-142.
- 寺本妙子. (2016b). 子育て支援に参加する中高年者の世代性. 日本発達心理学会第 27 回大会論文集, 312.
- 寺本妙子・廣瀬たい子. (2012). 親準備性促進ツールとしての NCAST 教材の有用性. 第 22 回日本乳幼児医学・心理学会抄録集, 16.
- 寺本妙子・廣瀬たい子. (2015). 次世代育成に関する心理教育の実践と評価：NCAST 教材を用いた予備的試み. 日本教育心理学会第 57 回総会発表論文集, 558.
- 寺本妙子・柴原宜幸. (2013). 大学生の「親への準備性」と時間的展望との関連. 日本教育心理学会第 55 回総会発表論文集, 565.
- 寺本妙子・柴原宜幸. (2014). 大学生の次世代育成に関する意識と時間的展望の関連. 日本教育心理学会第 56 回総会発表論文集, 607.
- 寺本妙子・柴原宜幸. (2015a). 大学生の次世代育成に関する意識と関連要因. 日本発達心理学会第 26 回大会論文集.
- 寺本妙子・柴原宜幸. (2015b). 大学生の次世代育成意識とその関連要因. 日本橋学館大学紀要, 14, 3-13.
- ①寺本妙子・柴原宜幸. (2015c). 大学生の次世代育成意識と時間的展望の関連. 日本橋学館大学紀要, 14, 15-23.
- ②寺本妙子・柴原宜幸. (2015d). 中高年女性による地域子育て支援に関する調査研究：現在の子育てに対する違和感について. 日本橋学館大学紀要, 14, 61-73.
- ③Teramoto, T. & Shibahara, Y. (2016). Factors related to attitudes toward nurturing the next generation in Japanese college students. The 31st International Congress of Psychology.

#### 5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 5 件)

- 寺本妙子(2016). 生涯学習における次世代育成に関する心理教育の試み. 開智国際大学紀要, 15, 137-142. (査読有)  
[http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi2/images/library/kiyo15/kiyo15\\_07.pdf](http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi2/images/library/kiyo15/kiyo15_07.pdf)
- 寺本妙子・柴原宜幸(2015). 中高年女性による地域子育て支援に関する調査研究：現



在の子育てに対する違和感について. 日本橋学館大学紀要, 14, 61-73. (査読有)  
[http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14\\_06.pdf](http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14_06.pdf)

寺本妙子(2015). 大学生を対象とした次世代育成に関する心理教育の実践と評価. 日本橋学館大学紀要, 14, 25-35. (査読有)  
[http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14\\_03.pdf](http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14_03.pdf)

寺本妙子・柴原宜幸(2015). 大学生の次世代育成意識と時間的展望の関連. 日本橋学館大学紀要, 14, 15-23. (査読有)  
[http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14\\_02.pdf](http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14_02.pdf)

寺本妙子・柴原宜幸(2015). 大学生の次世代育成意識とその関連要因. 日本橋学館大学紀要, 14, 3-13. (査読有)  
[http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14\\_01.pdf](http://www.kaichi.ac.jp/wp-content/themes/kaichi/images/library/kiyo14/kiyo14_01.pdf)

[学会発表](計9件)

Teramoto, T. & Shibahara, Y. Factors related to attitudes toward nurturing the next generation in Japanese college students. The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology. July 24-29, 2016, Yokohama, Japan. (予定)

寺本妙子. 子育て支援に参加する中高年者の世代性. 日本発達心理学会第27回大会, 2016年4月29日~5月1日, 北海道大学.

寺本妙子・廣瀬たい子. 次世代育成に関する心理教育の実践と評価: NCAST教材を用いた予備的試み. 日本教育心理学会第57回総会, 2015年8月26~28日, 朱鷺メッセ(担当校:新潟大学).

寺本妙子・柴原宜幸. 大学生の次世代育成に関する意識と関連要因. 日本発達心理学会第26回大会, 2015年3月20~22日, 東京大学.

寺本妙子・柴原宜幸. 大学生の次世代育成に関する意識と時間的展望の関連. 日本教育心理学会第56回総会, 2014年11月7~9日, 神戸国際会議場(担当校:神戸大学).

岡林喜優子・廣瀬たい子・寺本妙子・岡光基子・大森貴秀. 日本語版 BabyCue カードの試作: 親子の相互作用理解のために. 乳幼児保健学会第7回学術集会, 2013年9月28日, 横浜市立大学.

寺本妙子・柴原宜幸. 大学生の「親への準備性」と時間的展望との関連. 日本教育心理学会第55回総会, 2013年8月17~19日, 法政大学.

寺本妙子. 青年期の次世代育成に関する意識と時間的展望. 日本発達心理学会24回大会, 2013年3月15~17日, 明治学院大学.

寺本妙子・廣瀬たい子. 親準備性促進ツールとしてのNCAST教材の有用性. 第22回日本乳幼児医学・心理学会, 2012年11月17日, 早稲田大学.

[図書](計0件)

[産業財産権]  
出願状況(計0件)  
取得状況(計0件)

[その他]

6. 研究組織

(1)研究代表者

寺本 妙子 (TERAMOTO, Taeko)  
開智国際大学・リベラルアーツ学部・教授  
研究者番号: 20422488

(2)研究分担者

廣瀬 たい子 (HIROSE, Taiko)  
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・名誉教授  
研究者番号: 10156713

岡光 基子 (OKAMITSU, Motoko)  
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授  
研究者番号: 20285448

(3)研究協力者

岡林 優喜子 (OKABAYASHI, Yukiko)  
東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科

柴原 宜幸 (SHIBAHARA, Yoshiyuki)  
開智国際大学・リベラルアーツ学部・教授  
研究者番号: 30327275